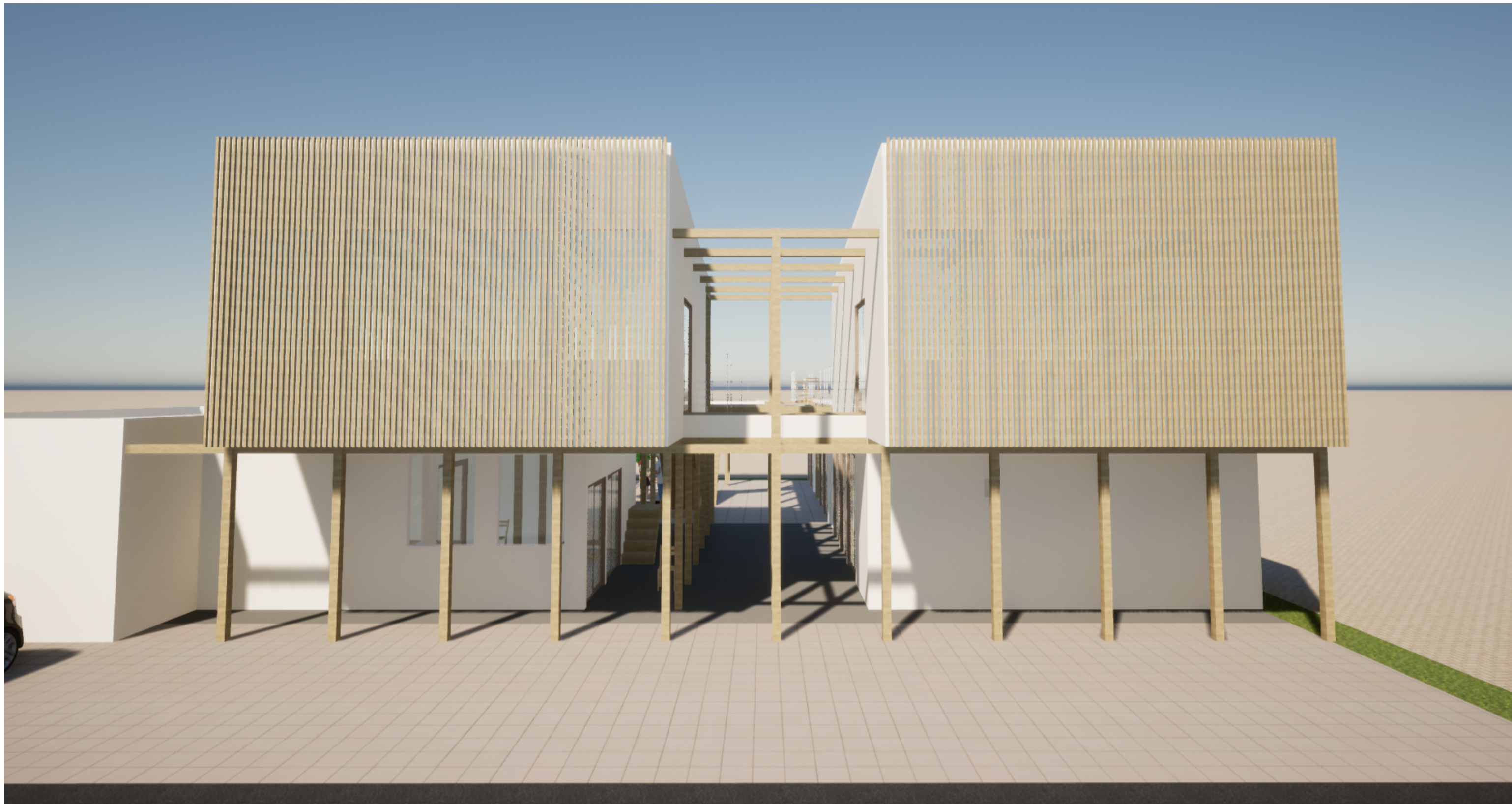
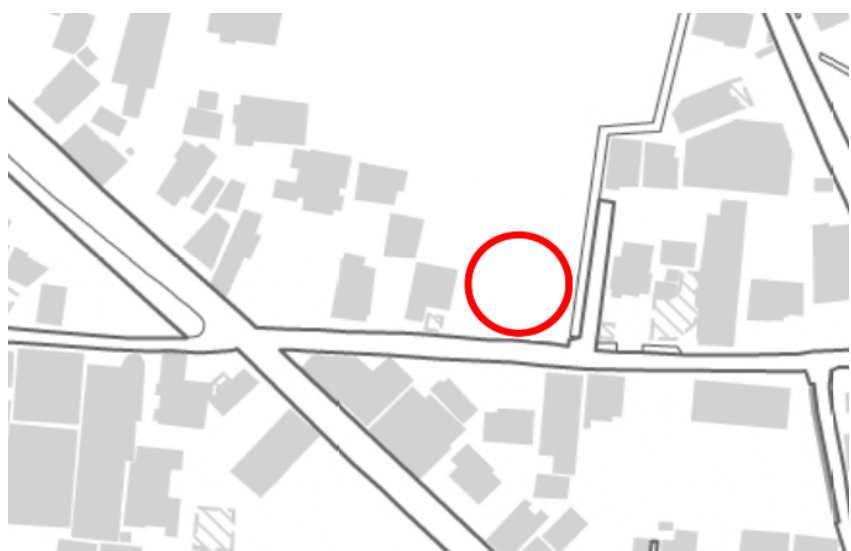


繋がる集合住宅

21UH043 前田宗一郎



■対象敷地



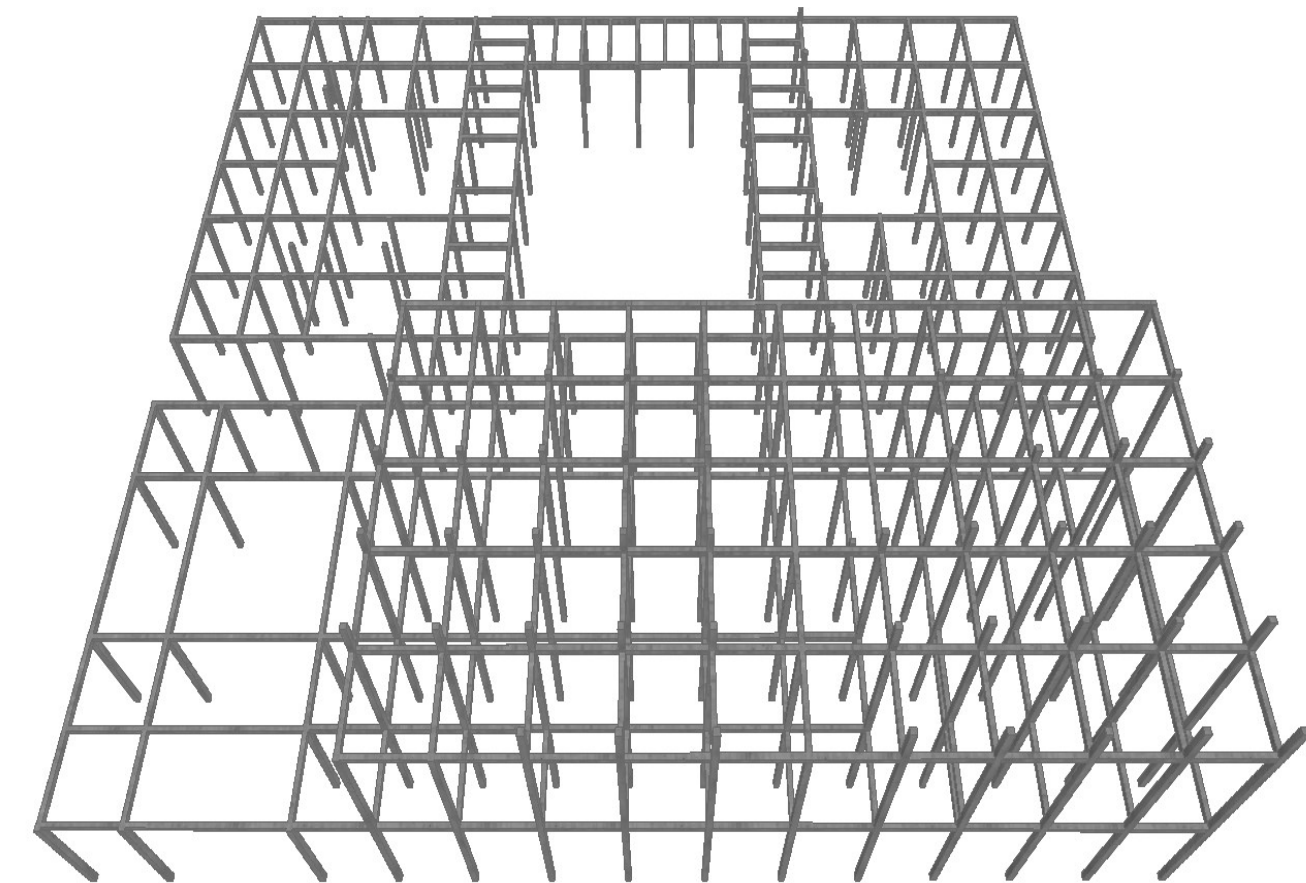
北側はとても広い空き地になっていて、南側は道路になっている。隣地は2階建ての家が建っている。小中学校も近く子育て世帯が住んでいる。地域の人が集う場所ではなく交流の機会などは少ない。

用途地域：準工業地域 特別工業地区
容積率200% 建蔽率60%
敷地面積 840㎡

■コンセプト

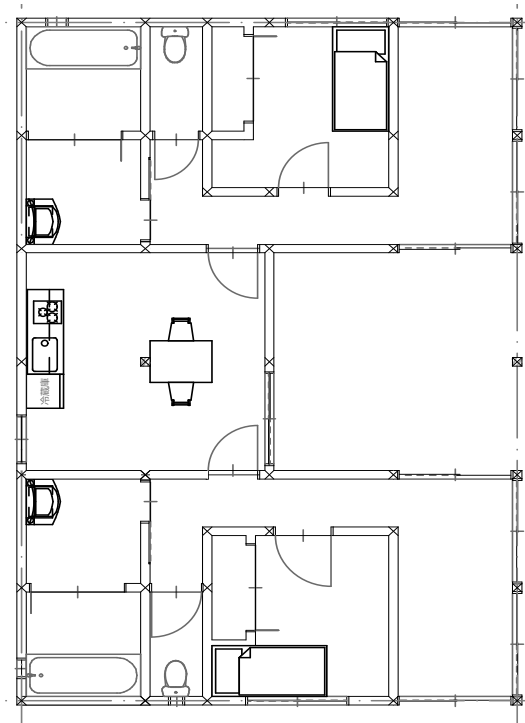
大川市は家具職人や建具職人が数多くいる。大川市の家具や建具の工業生産額は年々減少し、また工場の数も職人の高齢化などによりだんだんと減少しており大川市の伝統工業は衰退化しており、地域の活発さすらも減っている状況である。今回、私は職人や職人を目指す人たちが集まり技術を磨く場、地域に開くことで地域に貢献できる集合住宅を提案する。職人が仕事をするための工房と人が集まり、交流の生まれる広場を設ける。仕事を知ってもらうことで、大川市の伝統的な産業の継承にもつなげてゆく。また大川市にゆかりのある木を使い暖かみのある集合住宅とした。

■木のフレーム



2000×2000を基準としそこに箱を入れていく。これによって空間に連続性が生まれる。そうしてどんどん繋がりができ、人と人との関係の構築などへとつながる。

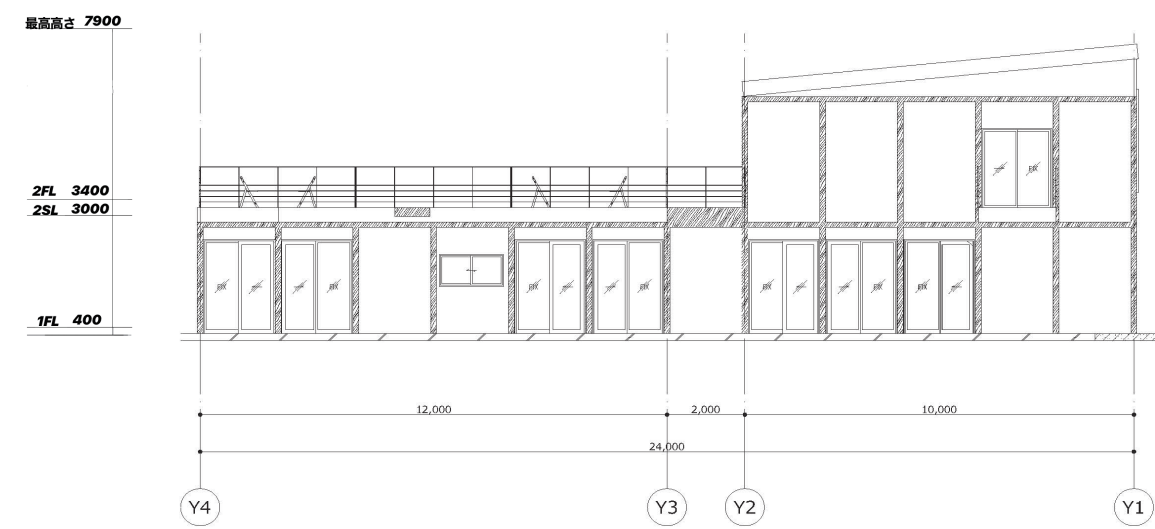
■住戸の間取り



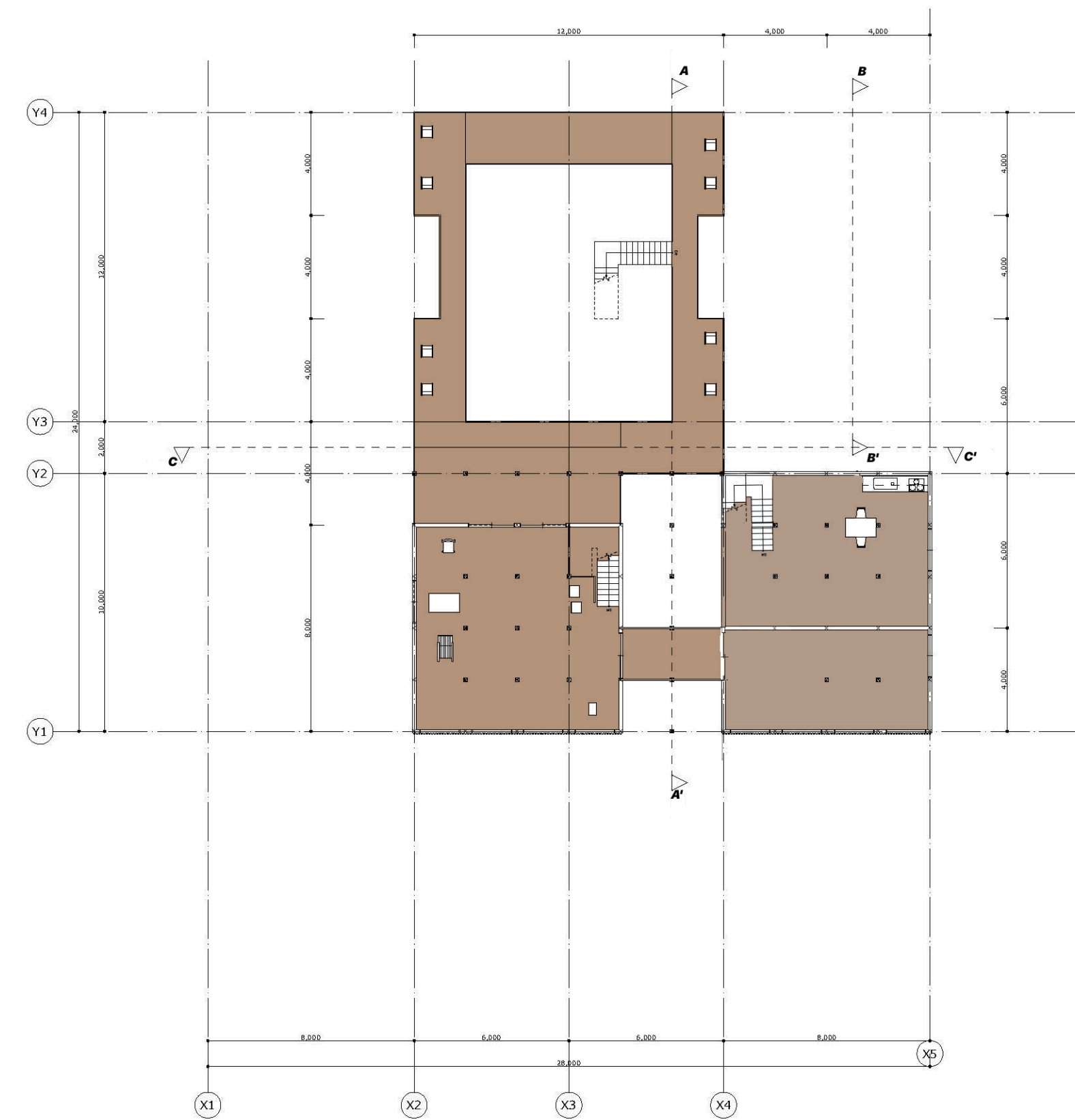
各住戸は土間から入ることができる。寝室、風呂、トイレはそれぞれの占有のものとなっている。食事をとるダイニングとキッチンが共有のものとなっている。プライベートとパブリックな空間分けできっちりと扉をつけて土間とプライベートスペースを開けるのではなく段差によって土間とプライベート空間が分かれている。そうすることで訪れた人に人の気配を感じ、話やすさや親しみやすさを持つことができる。



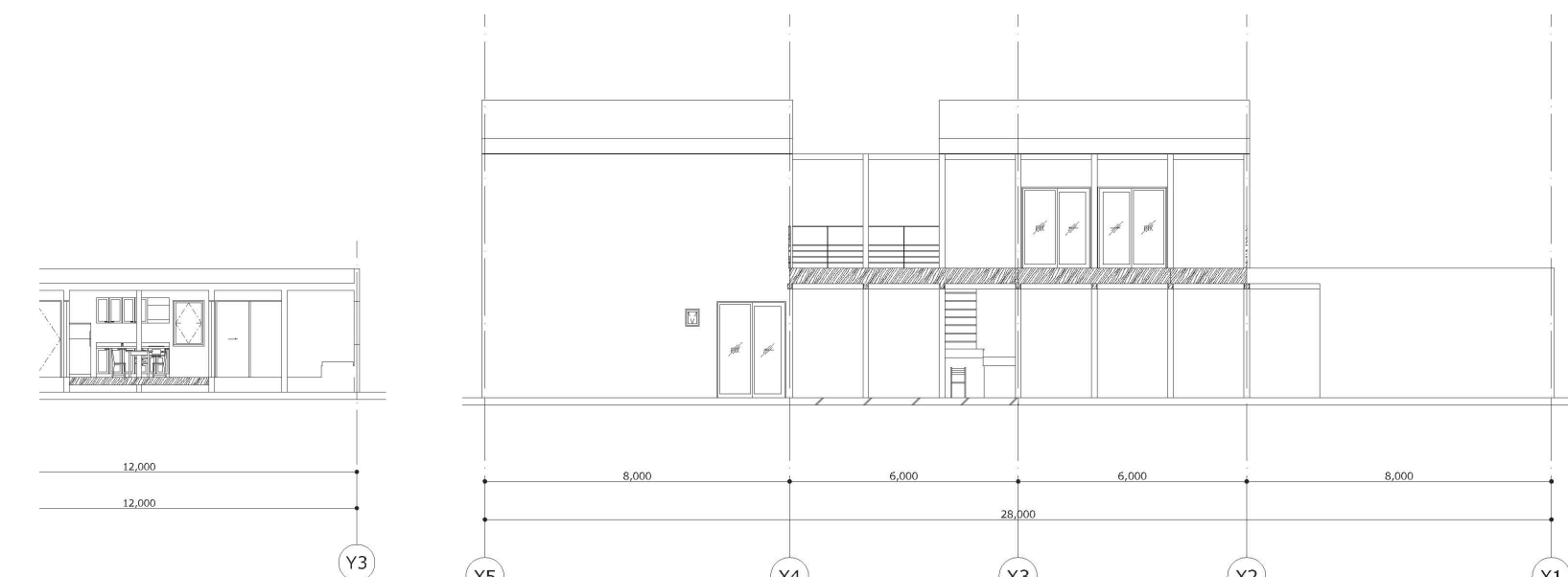
平面図兼配置図 1:200



A-A' 断面図 1:200



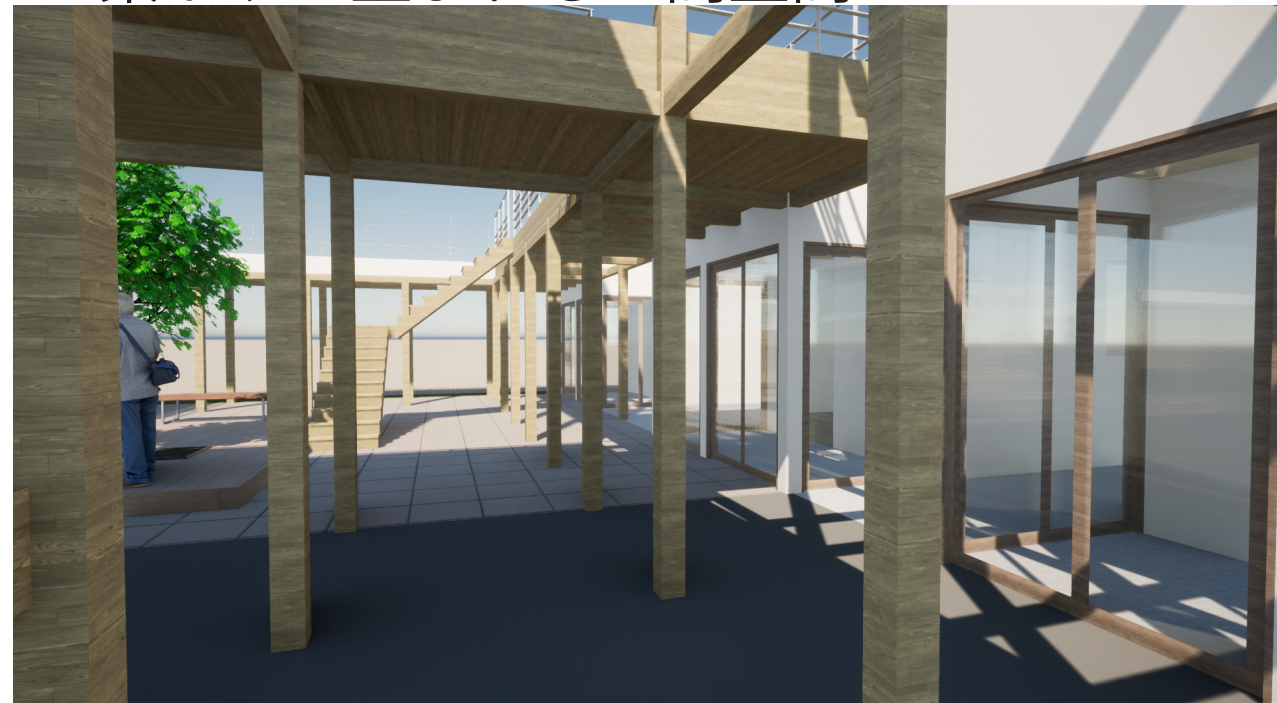
2階平面図 1:200



B-B' 断面図 1:200

C-C' 断面図 1:200

■繋がり生まれる土間空間



住宅の入り口には土間があり、そこで職人たちは作業を行ったりお客や地域住人とかかわることのできる空間になっている。広場からも見えることで仕事に関わりを持ってもらったり、商品を買ってもらうきっかけになる場である。また出店のような感じで気軽に立ち寄れるような空間にした。



■地域に開かれた広場



地域住民や住人の集まり、くつろぐ場所。南面した建物の片流れの屋根により人の流れをうちへと導く。広場中央にはシンボルツリーを配置することで人々に安らぎをもたらす。ベンチを配置し、休憩の場や談笑スペースとしての活用もできる。また2階にはテラスがあり、南側の田んぼなどを眺め、落ち着くことができる。

